

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年5月13日　第6号

ネタがない

　「ネタがない」とよく言ったりします。

言葉の始まりは、寿司屋ではないかと勝手に思っていました。「ネタ」という言葉をよく使うのは、お寿司さんが多かったように記憶していたからです。　　ずいぶん昔の話ですが、休日にちょっといいことがあってお寿司屋さんに行きました。難波の法善寺を出たところに「すし勝」というお店があったのです。くるくる回らないカウンタ－中心のお寿司屋さんでした。

その日は、本当にいいことがあって調子に乗って「季節を感じさせる一品を」なんて注文しました。

夏の初めの暑い夕方でした。

目の鋭い職人さんがさらに目を鋭くして、しばらく腕を組んでいました。

しばらくすると蓋のついたお椀が現れました。

「季節を感じさせる一品」は、そのお椀の中に。

恐る恐る開けてみると、優しい柑橘系の香りが広がりました。そして、お椀の中には、透明の餡(あん)が広がり、鱧のすり身がお団子になって白く浮かんでいます。さらにそのお団子の上に緑のきぬさや。

思わず「南の島や」と叫んでいました。

職人さんも思わず「わかってもらえましたか」と鋭い目が緩んでいます。

さらに、それを食べるとお団子の中にさわやかな柚子の後味。目で楽しんで香りで感じて、最後は舌で。

ちなみに、「ネタ」の語源ですが、寿司屋は関係なく、「ネタ」をひっくり返して「タネ」。「種」が語源らしいです。